

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

62

伊勢戸 徹

白浜水族館に展示されている生き物にはそれぞれ二つの名前が書かれている。和名とラテン語による学名だ。日本の水族館なら、和名だけで十分なようにも思えるが、それでもわざわざ学名を書くのは理由がある。

生き物は国境と関係なく分布している。世界で協力して研究していく必要がある、世界共通の名前が必

要不可欠になっているからだ。いまも世界のあちろこちろで研究が進められている。もちろんその成果は学名で報告される。学名を無視しては水族館も最新の情報についていけなくなる。そんな大事な学名に少しでも目を向けてみよう。

ancさんに敬意を表し、この学名を付けたのだ。
 ちょうどわたしたちの名前と同じように、学名は二つの名前を並べて表す。Acanthasterは名字に当たるもので「属名」という。では同じ属名のヒトデが他にいろいろあるだろうか。
 アカオニヒトデ(Acanthaster brevispinus)がそれである。
 属が同じということは、進化の

控えめにとげとげなヒトデ

白浜水族館に展示されているオニヒトデはサンゴを食べ荒らすことで有名なヒトデだ。学名は「Acanthaster planci」。ラテン語の辞書によると、Acanthasterは「とげとげのヒトデ」という意味である。planciはPlancという人物の名前に由来するらしい。スウェーデンの博物学者リンネがP

上でとても近い関係にあるということの意味し、後ろの名前(種小名)で区別される。brevispinusは「短いとげ」という意味だ。オニヒトデと比べ、とげが目立たないのでこの名前が付いたのだろう。

しかし、そうなるどころどころじゃない。アカオニヒトデの学名を続けて言うと「とげとげのヒトデのとげの短いやつ」になる。結局のところあまりとげとげではないということなのかな。

白浜水族館でも飼育しているの、一度ご覧あれ。アカオニヒトデは控えめにとげとげなヒトデなのである。(京都大学助教)

アカオニヒトデ



△ アカオニヒトデ
 (水槽番号215)